民主島根
2023年
10.22
第1435号
発行所　松江市袖師町３－６　TEL 0852－24－2444
日本共産党島根県委員会　FAX　0852－24－6369

党中国ブロック学習会　笠井衆院議員が講演

核燃・中間貯蔵施設止めよう

山口・柳井市　尾村県議がビデオメッセージで訴え

山口県上関町で使用済み核燃料の中間貯蔵施設建設が計画される中、日本共産党国会議員団中国ブロック事務所は８日、笠井亮衆院議員を招いて原発問題学習・交流会を同県柳井市で開きました。

笠井氏は、岸田政権が原発推進法の第一歩として原発推進に不可欠の中間貯蔵施設建設や、島根原発２号機の再稼働を狙っているとし、これらを中止に追い込む全国的な意義を強調。国の核燃料サイクルの破綻や、住民と協力して全国各地で原発建設を断念させ、再生可能エネルギー推進を求めてきた党の歴史を解説。総選挙での党躍進で岸田政権に審判を下し、「原発ゼロに転換を」と訴え、「力を合わせて中国地方と日本の未来を開こう」と呼びかけました。

同県平生（ひらお）町の赤松義生・党町議が中間貯蔵施設建設中止を求める署名活動を報告。尾村利成・党島根県議がビデオメッセージで島根原発再稼働中止を訴えました。

大平よしのぶ衆院中国ブロック比例予定候補が上関町・祝島での住民の声を紹介。「アメリカ言いなり・財界優先の自民党政治、岸田政権の流れを止めたい」と総選挙での議席奪還の決意を表明しました。

原発ゼロへの転換を訴える笠井衆院議員（山口県柳井市）

中電をただす尾村県議（前列・右から２人目）（松江市）

使用済み核燃　再処理技術は未完成

県原発安対協　尾村・大国県議が指摘

中国電力島根原発の30キロ圏にある自治体の首長や議員、住民団体の関係者らでつくる島根原子力発電所周辺環境安全対策協議会が４日、松江市内で開かれました。会長の丸山達也知事のほか、県議、松江と出雲、安来、雲南の４市長（代理含む）、住民代表ら約50人が委員として出席。中電が島根原発１号機廃止措置計画の変更や島根原発２号機の安全対策工事等の状況などを説明しました。

日本共産党の尾村利成県議は「今回の計画変更は使用済み核燃料の処理・処分ができないからだ」と述べ、六ケ所再処理工場（青森県）が2024年度上期には竣工すると強弁する中電に対し、「再処理技術は未完成であり、竣工しない時には説明責任を果たすべきだ」と強調。中電が25年度以降の早期に実施を計画する「２号機でのプルサーマル運転には反対する」とし、住民に対しプルサーマル運転の説明をしっかり行うよう要求。また、廃炉作業での放射線業務従事者の被ばく低減対策や事故防止対策に万全を期すよう求めました。

中電・島根原子力本部の長谷川千晃本部長は「再処理やプルサーマルについて適宜、説明する」「廃炉作業は安全確保を最優先に行う」と答えました。

大国陽介県議は「核のごみの処理方法は未確立。原発は技術的に未完成だ」と強調しました。

島根２号機再稼働撤回を要望

原発ゼロの会が中電に申し入れ

原発ゼロをめざす島根の会は３日、中国電力に対し、原発事故時の避難計画の実効性がないことなどを理由に、島根原発２号機の再稼働撤回などを申し入れました。

申し入れで▽六ケ所再処理工場が未完成で核燃料サイクルは破綻している▽再処理工場がなければ上関に使用済み核燃料が置かれ続けるなどと指摘し、来年８月の再稼働反対を強く求めました。

山口県上関町に計画する使用済み核燃料の中間貯蔵施設建設に向けた中電の動きに抗議する文書も手渡しました。

島根原発２号機再稼働ストップを

県庁前　党県議団、むらほ衆院1区らが訴え

９月県議会が閉会した５日夕、県庁前で日本共産党の尾村利成、大国陽介の両県議、むらほえりこ衆院島根１区予定候補、松江市議団が宣伝しました。（写真）

尾村県議は県政の仕事は県民の命と安全を守ることだと強調し、中国電力が来年８月に再稼働をめざす島根原発２号機について「原発直下には活断層が走り、実効ある避難計画も未策定。力を合わせて２号機再稼働をストップさせよう」と呼びかけ。

大国県議は防災・減災対策の強化や、政府が自衛隊員募集のために自治体に対して名簿提供を求めている問題などを報告しました。

鼓動

先日、「志位さんと語るつどいｉｎ島根」を、党県委員会の主催で開催した。志位和夫委員長にとっては、「党創立101周年記念講演会」後、初めての地方での遊説だった。しかも今年は、わが党にとって新たな100年に向けての第一歩となる年でもあり、党首の来県には、多くの期待が寄せられた▼つどいでは、創立101周年記念講演会の前に刊行された一冊、わが党の『百年』史にも触れながら、多岐にわたる質問（党綱領に対して、または国政や生き方について等）に丁寧に答える委員長の姿があった▼思いの外、心に残った回答がある。それは、事前に用意された質問への回答後、フロアから出された質問に答えたものだ。質問は「ストレスはありますか？あればそれをどう解消されていますか？」というもの。これは恐らく、様々な場面で矢面に立つことの多い党首に対して、党内外含め、多くの方が問うてみたいものだったに違いない。質問と同時に、会場に共感のどよめきが起こったのがそれを物語っていた▼委員長はこれに対し、「ストレスはある」としつつも、それが解消される場があり、それは「家族の笑顔に出会える空間だ」と回答。活字にすると何のことはない回答のように思えるかもしれないが、筆者は委員長の傍らで、この発言を実にしみじみと心温まる想いで聞いた▼自らを丸ごと受け止めてくれる存在。それは必ずしも「家族」に限られたものでもあるまい。しかし、改めて、人は人によって支えられ、力を回復するのだと思わされた。互いを認め合い、互いの持てる力を出し合い、支え合う仲間作り。志位委員長の来県を力に、新しい歴史を共につくる仲間を増やしたい。（江）